

科目名	教員名
日本文学各論2	村元 督

開講詳細

開講キャンパス	開講時期	曜日	時限	開講学年	単位数
渋谷	集中	スプリングセッション	スプリングセッション	3	2

講義概要

授業のテーマ

日本文学の演劇性

授業の内容

受講生は、記紀時代から続く「日本文学と演劇の魅力的な関係性」を多角的に学んだあと、文豪たちの書いた劇文学を参考にして、実際に短編の戯曲(演劇脚本)を書いて、さらにそれを上演するところまでを行います。

「自分で書いた脚本を演じる」という、稀で刺激的な試みの過程で、実社会で役立つ「表現技法や企画力」を身に付け、2045年にも到来するとされる「シンギュラリティ」に打ち克つ「血の通った表現」ができる人物を育成します。

また、PBL(課題解決型)を導入して、「日本文化の継続と発信における諸問題」について考察していきます。特に、現代における「日本文学と演劇の表現の諸問題」を討議して、今後の課題とその解決方法を探求します。

到達目標

「知識・理解」 日本文学が有する演劇性について、具体的に説明できる。

「思考・判断」 演劇などの舞台芸術を、地域共生に役立たせる方法を知り、文化創生について述べるができる。

「関心・意欲」 AI(人工知能)が、これからの劇文学に及ぼす弊害について探求したいという意欲を持つ。

「技能・表現」 日本文学作品に想を得るなどして、演劇の短編脚本を書き、それを実際に上演できる。

授業計画

第1回	<p>「日本文学に見る演劇の始原と系譜」</p> <p>古事記の「祈り・祝祭・鎮魂」を軸に、日本文学と演劇の関係性を時系列的に考察します。</p> <p>講義のキーワード 「鎮魂と演劇表現」 「能・狂言と劇文学」 「伝承文学の演劇性」 「近代文学の中の演劇作品」</p> <p>【準備学習 100分】 ⇒日本文学史を調べておく。</p>
第2回	<p>「文豪たちの野望」</p> <p>近代文学の文豪たちが小説以外に戯曲(演劇脚本)を書いた理由を考察し、そこに現れた作家たちの「創作上の苦闘」を考察することで、現代における表現の諸問題をも追求します。</p> <p>講義のキーワード 「文豪たちの演劇的野望」 「演劇脚本は文学作品か」 「小説の限界と演劇の限界」 「現代作家の持つ演劇性」</p> <p>【準備学習 0分】</p>

	⇒森鷗外、菊池寛、山本有三、武者小路実篤、佐藤春夫、谷崎潤一郎、太宰治、三島由紀夫ほかの作品について概観しておく。
第3回	<p>「古典文学と演劇作品」</p> <p>王朝文学を演劇化した脚本を紹介し、「古典文学の持つ演劇性」を考察します。</p> <p>講義のキーワード 「源氏物語が元になった演劇」 「普遍的テーマの変異」 「受講生による古典を下敷きにした新作への期待」</p> <p>【準備学習0分】 ⇒なし</p>
第4回	<p>「演劇の魅力と人工知能による作品」</p> <p>人工知能が小説や劇脚本を書く時代が到来しつつあります。それに抗して「血の通った表現」としての演劇を守っていくために、演劇の魅力を実話をもとに紹介し、日本文学において、作家たちが希求してきた「演劇的表現技法」について考察していきます。</p> <p>講義のキーワード 「シンギュラリティ問題とは何か」「血の通った表現とは何か」 「漱石の演劇観と予見性」</p> <p>【準備学習0分】 ⇒なし</p>
第5回	<p>「脚本の書き方・1」</p> <p>講義と討論(討論の発言は評価対象)</p> <p>脚本執筆の前提として、作家の「創作姿勢」について討論をしながら理解を深めます。</p> <p>講義のキーワード 「演劇と文学がしてきた挑戦」 「作家の軸足とは」 「時代を撃つ脚本とは」 「表現の自由とは」</p> <p>「演劇の表現演習」(基礎解説) 表現体としての自身を知り、自己表現力(プレゼン力)を増すための基礎的解説をします。</p> <p>講義のキーワード 「作家と自意識」「感動の創出方法」「自己肯定のメソッド」</p> <p>【準備学習0分】 ⇒なし</p>
第6回	<p>「演劇の表現演習・1」 ワークショップ(実技)</p> <p>身体表現の基礎(発声法・感情表現法・朗読法・セリフ術)を実技演習します。</p> <p>講義のキーワード 「教職志望者に必要な表現力」「面接突破に必要な表現力」 「人を動かす具体的表現技法」</p> <p>【準備学習0分】 ⇒なし</p>
第7回	<p>「演劇の表現演習・2」 ワークショップ(実技)</p> <p>演技と演出のメソッドを解説したうえで、具体例を通して実際に演技表現します。</p> <p>講義のキーワード 「太宰の脚本と朗読演習」「先鋭的演劇シーン」「表現と演出」</p> <p>【準備学習0分】 ⇒なし</p>

<p>第8回</p>	<p>「演劇の表現演習・3」 ワークショップ(実技) 感情表現の技法を体得するための基礎的エチュードを行います。</p> <p>講義のキーワード 「舞台の喜怒哀楽表現」 「日常の表現技法」 「声優の表現技法」 【準備学習 0分】 ⇒なし</p>
<p>第9回</p>	<p>「脚本の書き方・2」</p> <p>脚本の書き方の基礎を解説し、舞台表現の制約の中でも、魅力的なキャラクター作りをする方法を明示します。</p> <p>講義のキーワード 「あらすじ」「暗転と場転」「ト書きと演技」「キャラ作りの三要素」 【準備学習 0分】 ⇒なし</p>
<p>第10回</p>	<p>「脚本創作演習・1」 実作演習と添削指導</p> <p>日本文学の作品に想を得て、オリジナルな演劇脚本を執筆してみましょう。</p> <p>講義のキーワード</p> <p>「日本文学で演劇になる作品とは」 「小説の表現と演劇の表現の差異」 【準備学習 0分】 ⇒なし</p>
<p>第11回</p>	<p>「脚本創作演習・2」 実作演習と添削指導</p> <p>講義のキーワード</p> <p>「テーマの設定方法」 「テーマの表現技法」 「テーマのストーリー化」 【準備学習 0分】 ⇒なし</p>
<p>第12回</p>	<p>「脚本創作演習・3」 実作演習と添削指導</p> <p>講義のキーワード</p> <p>「文豪たちが好んだ極限状態の人間模様」「感動とカタルシス」「実際の舞台化」 【準備学習 0分】 ⇒なし</p>
<p>第13回</p>	<p>「演劇と地域共生」 講義と討論（討論の発言は評価対象）</p> <p>演劇が「地域共生」に寄与する実例を紹介し、文化創生のための「今後の課題」について討論し、その解決策に迫ります。</p> <p>講義のキーワード 「被災地を励ます演劇公演」「演劇が表現文化の中核たる要因」 「全国各地の過疎地を再生する演劇とは」 【準備学習 50分】 ⇒國學院大学が標榜する「地域共生」について理解しておく。</p>

<p>第14回</p>	<p>「まとめ」 受講生が書いた脚本を最終添削した上で、「日本文学と演劇の現況と問題」を考察します。</p> <p>講義のキーワード 「演劇が表現する日本文化の諸相」「表現文化の課題」 【準備学習0分】 ⇒なし</p>
<p>第15回</p>	<p>授業時試験 ()内は試験内容</p> <p>1、「設問選択式 論述試験(30分)」 (講義内容のテスト。テキスト・資料の持込み可) 2、「演技表現試験」 (自作脚本、または共作脚本による演技発表試験)</p> <p>【準備学習100分】 ⇒前日までに、講義テキスト・資料・ノートで、各回の授業内容を確認しておく。</p>
<p>授業計画の説明</p>	<p>授業は、講義・実技演習・討論から構成されています。 実技演習と討論では、積極的な習得態度と発言を希望します。またそれらは「平常点」となります。</p>

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

授業時間外の学習方法

講義で取り上げる作家たちの作品を読んでください。
実際の演劇公演に足を運んで、「表現文化」の一端を体験してください。
参考文献にあたってみてください。

受講に関するアドバイス

- ①受講者の演劇経験の有無を問いません。初心者にも解るように工夫した講義テキスト(含・資料)を、毎回の授業時に配布します。
- ②講義のポイントは、ホワイトボードに書くので、専用ノート持参が望ましいです。
- ③3月22日は、実技演習(ワークショップ)等なので、運動用の服装とズック・水分等を持参してください。
- ④3月23日は、脚本創作なので、各自が執筆用ツールや「原稿用紙」(様式自由)等を持参してください。
- ⑤受講生に対して、事前に説明をしたうえで、内容と進度の変更がある場合があります。

成績評価の方法・基準

評価方法	割合	評価基準
授業時試験	50%	日本文学と演劇の関係性について基本的な説明ができるか。 演劇が表現文化の中核たる「要因」と「今後の課題」について述べることができるか。 演劇の制作の基礎的知識と表現技法を習得し、実際に演技で表現できるか。
平常点	50%	課題解決に対しての積極的な発言と、脚本執筆力、演技力、自己表現力などを練磨する努力を、授業時に評価して加点します。

※すべての授業に出席することが原則であり、出席自体を加点の対象とすることはできません。

<p>注意事項</p>	<p>最終日(3/24・金曜)3コマ目(第15回目授業)は「授業時試験」です。これを欠席すると、評価は原則、不可(R)とします。</p> <p>授業の各開始時刻に遅刻しないこと。</p>
--------------------	---

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

教科書・参考文献等

教科書

なし

参考文献

書名	著者名	出版社	備考
演劇入門	平田オリザ	講談社現代新書	
シンギュラリティは近い	レイ・カーツワイル	NHK出版	
村元督 脚本集	村元 督	門土社総合出版	

参考文献コメント

参考文献以外でも、興味ある演劇の関係書籍を読んでもらいたい。